1　旭川大雪圏域連携中枢都市圏フェア（旭川市企画実施）について

旭川市が旭川市と近郊８町を中心とした地域産品の販路拡大や認知度向上を目的とし、名寄市・士別市・富良野市とも連携し、羽田空港第１ターミナル２階マーケットプレイスで９月３日（土）・４日（日）の２日間開催するフェア。

旭川市を中心に４市８町による一大イベントであり、大きな宣伝効果を見込めるフェア。

2　どさんこプラザ羽田空港店「旭川大雪圏＆かみかわフェア in 羽田空港」について

旭川市が羽田空港で上記フェアをすることに伴い、上川総合振興局としても管内の特産品を PR するため、羽田空港第１ターミナル２階にある「北海道どさんこプラザ羽田空港店」で同期間フェアを開催するもの。

旭川市の実施するフェアと連携し、相乗効果のある PR を実施するため、特産品を景品としたノベルティの配布や、誘客 PR 等を実施する予定

【北海道新聞５月 17 日記事】

「大雪都市圏」羽田空港でＰＲ

市と周辺8町　物産展、今夏にも

旭川家具展示会も計画

旭川市は、同市と周辺8町でつくる枠組み「旭川大雪圏域連携中枢都市圏」を活用し、今夏にも農産物の物産展を羽田空港で開催する方向で検討している。同都市圏は今年1月に発足したが、物産展が実現すれば具体的な動きとしては初めて。このほか、旭川家具の展示会も計画しており、首都圏で1市8町の売り込みを強化したい考えだ。

今津寛介市長が4月下旬に上京した際、羽田空港を管理運営する日本空港ビルデングの鷹城勲会長と会い、農産物の物産展と旭川家具の展示会を開催することで一致。今津市長は記者会見なで「旭川の農産物の魅力と旭川家具のデザインの力を発信したい」などと話した。物産展は上川管内23市町村の枠組みで進める案もあるという。

旭川大雪圏域連携中枢都市圏は、旭川市と鷹栖、東神楽、当麻、比布、愛別、上川、東川、美瑛の上川管内中部8町が一つの圏域として経済活性化などを目指す枠組み。国から事業への財政支援を受けることができ、観光政策などの連携につなげることを目指す。旭川市が4月に開設した東京事務所は本年度中にも9市町の合同事務所に発展させる方向だが、物産展が先行する可能性もある。

羽田空港はコロナ禍で業績が悪化する中、事業の多角化を図っており、北海道の食に着目。鷹城会長が昨年12月に旭川市と和寒町を訪問した縁で、各地の食の魅力を伝える EC（電子商取引）サイト「羽田産直セレクション」に旭川と和寒の特産品を紹介するなど連携を強めている。

（村田亮、綱島康之）

©北海道新聞社

【旭川市・振興局フェア位置関係図】

3　どさんこプラザ羽田空港店について

１）店舗概要

令和３年（2021 年）６月オープン。羽田空港第１ターミナル２階出発ロビー（C ゲート前）に立地。営業時間は７時～19 時。売場面積は約 167 ㎡で札幌店の約６割。

(株)札幌丸井三越・(株)北海道百科・日本空港ビルデング(株)による共同運営

２）ジャンル別売上実績や傾向

売上実績は、水産加工品（31%）・菓子類（26%）・グロサリー（4%）・農産品（3%）・乳製品（3%）・酒類（3%）と水産加工品や菓子類が大半を占めています。

また傾向として、単価は７～８百円程度の個装商品（箱詰めでなくバラ）が売れます。

３）催事スペースについて

催事スペースは、店舗前面に面し２箇所あります。

貸出什器は、冷蔵・冷凍什器１台と常温什器１台（※右画像の通り）です。

催事スペースでの売上実績は、昨年９月実績で１日あたり平均 45,000 円程度です。